



**Q** 子供が独り言を言うのはなぜですか。

**A** 4歳前後の子供は、発語することによって

たとえば青い鉛筆がないと、「青い鉛筆、どこいった？」まあいいや、緑にしよう」などとよく独り言を言います。そばで聞いていると微笑ましいですね。これは、言葉を発しながら考えているのです。こうした思考のための言葉を「内言」といい、コミュニケーションの言葉としての「外言」と区別します。

声に出すのは、他者と自分の区別がつかない幼児の自己中心性からくるもので、独り言を言っているときは一生懸命、考えている証拠です。

●言葉で行動をコントロール

言葉にはコミュニケーション、思考の働きのほかに、行動を調整する働きがあります。心理学者のルリアは、4歳児にへラン

プがついたらボタンを2回押すように指示し、ランプがついたら①「2回ボタンを押さない」②「黙って2回押さない」③「2つ」と声を出して2回押し

**Q** 何でも面白がってやっていったのに、年中組になって引込み思案になりました。

**A** プロセスに共感しながら、楽しめるよう言葉がけしましょう。

4歳になると、先を予測したり、友達と比較したりできるようになります。3歳までは元気に遊んでいたのに、4歳になるとできていたことも「できない」と言って母親にまとわりついたりますので、引込み思案になったと感じるでしょう。

4歳児がよくわかるエピソードがあります。「うさちゃん

なさい」④「押し、押し」と言って2回押しなさい」と、4通りの方法で行ないました。どの場合に正しく押せたでしょうか。そうですね、「押し、押し」と2回声に出すと、うまくできたのです。

5歳を過ぎると声に出さなくても頭の中で思考し、正しく行動できるようになります。年長児になるとお兄さん、お姉さんへと目覚ましく成長します。

が好きなのに、大好きなおばあちゃんに青い帽子をプレゼントしてくれました。うさちゃんは「何て言うかな？」と聞くと、3歳児は「おばあちゃんに、いいな」と言う。だって赤が好きなんだもん」。5歳児は「大好きなおばあちゃんだから、ありがとう」と言う。はっきり主張する3歳児に対して、5歳児は相

手の気持ちを押し置きます。

ところが4歳児は、「うーん、どうしよう：おばあちゃんに悪いし：」などと、人目を気にして思いを巡らし、決められませんか。何かをするときも、「うまくできるかな」「〇〇君はできるのに、できなかったらどうしよう」などと、失敗を恐れたり、葛藤したりするようになります。

●褒めて待つ

子供が尻込みすると、親御さんはがんばらせようとして、「やってみないとわからないで

しょ」「自信をもたないといけないよ」などと励ましたつもりが、失敗を嫌がる4歳児はかえって自信を失うことになります。

そこで、「初めは不安だよね」と共感してあげ、日頃から「楽しそうだね」「がんばっているね」とプロセスに注目した言葉がけを意識してみましょう。子供は結果を気にしないで、それ自体を楽しめるようになります。またスキップや折り紙など、できることが増えてくるので、できたことで成長を一緒に喜びましょう。



**Q** パパと触れ合う時間がありません。

**A** 休みの日にお風呂に入れてもらいましょう。

帰宅の遅いパパと触れ合えるように、子供の就寝時間を遅らせる親御さんがいますが、子供には規則正しい毎日の生活リズムが大切です。

そこで、パパがお休みの日に

は入浴をお願いしましょう。父親になることはできても、父親であるには、子供との触れ合いが必要です。子供とのスキンシップとコミュニケーションを密に満たしてくれるのが「パパ

●ワンポイント・アドバイス

「パパフロ」はイクメン力を高め、家族の絆を強めてくれます。魔法の誘い文句は「パパとお風呂で“遊ぼう”」。

口」。数年前のインターネット調査\*では、父親全体の8割以上が父子入浴を実践し、親子関係が良好と答えています。

しかも入浴時間が20分を超えると、子供が「礼儀正しい」「家族にやさしい」など、親からみた子供への評価が上がっています。フロ・コミュニケーションで、父親から社会性形成による影響を受けるのでしよう。しかもへ入浴時間が20分を超えると答えた多くが「夫婦仲がいい」と回答しています。だから子供の心の安定につながっているのですね。

\* 資生堂：スーパーマイルド「パパフロ応援委員会」調べ（2012年）